

水稻 イチモンジセセリについて



図1 イチモンジセセリ成虫



図2 幼虫が綴った苞（つと）



図3 苞（つと）内の幼虫

1 生態

イチモンジセセリ（成虫の体長は20mm、翅を広げた開長は35mm。体色は茶褐色で、後翅に一列に並んだ白紋を持つ。幼虫の体長は終齢で40mm、頭は淡褐色、胴体は淡緑色。）はイネの害虫で、幼虫がイネの葉を食害することで、イネの出穂が妨げられたり、稔実に影響するため減収する。幼虫はイネの葉を数枚まとめて綴り、円筒状の“苞（つと）”を作ることから、特にイネツトムシと呼称する場合もある。

本虫は、イネの株内やイネ科雑草の中で幼虫により越冬する。成虫は花の蜜を吸って生活し、イネの葉に産卵する。

2 発生状況

本県では5月頃に越冬世代の成虫が出現し、おおよそ年に3回発生する。暖冬の年は越冬量が多く、発生が多くなるほか、気象が高温乾燥で推移すると発生が多くなる。

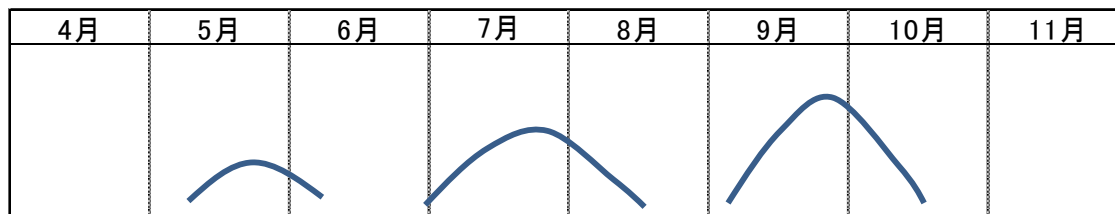


図4 イチモンジセセリ成虫の発生活長

3 防除対策

(1) 耕種的防除

畦畔や休耕田等の周辺雑草の除草を行う。窒素過多で葉色が濃く推移すると産卵されやすくなるため、適正な肥培管理を行う。

(2) 薬剤による防除

箱施薬剤による防除と本田での防除を行う。本田での薬剤散布は幼虫発生初期に行う。幼虫は夜間につとから抜け出し、葉を食害するため、薬剤散布は夕方に行うと効果が高い。